

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291600094	
法人名	社会福祉法人 豊立会	
事業所名	グループホームまんざきの家玲光苑	
所在地	千葉県成田市松崎259	
自己評価作成日	平成29年11月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム	
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8	
訪問調査日	平成29年12月12日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様同士がとても仲が良く、アットホームな雰囲気の中で生活をされています。ご利用者様がそれぞれの役割を持って、家族的な環境の下で、日常生活が送ることが出来るように、ご利用者様の希望や体調に合わせての支援を行っています。一人ひとりの生活のリズムに合わせて、運動したり、外に出掛けたりと、毎日が漫然かつ画一的なものにならないように配慮しております。また、入所されたことで、社会との関わりが薄くならないように、地域の催し物に積極的に参加したり、ボランティアの受け入れや、小学生や高校生との交流を図っております。ご本人が持っている能力を維持継続できるように、洗濯物たたみや食事作りなどの家事手伝いなど、得意としていることを毎日の日課として取り入れて支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム まんざきの家 玲光苑」は小規模多機能ホームが併設しており、日頃から合同行事での交流や看護師による支援等、様々な場面で連携を図っている。また、母体の法人が各種介護保険サービス事業所を運営しており、柔軟なサービス提供の支援体制も充実している施設である。年間を通して様々な行事が実施されていると共に、ボランティア・小学生・高校生等との交流もあり、入居者の楽しみや生活の活性化につながっている。施設季刊誌「四季歳々」や月次報告書「まんざきこーよ」を発行し、入居者の日々の活動や様子を伝える等、施設の理解促進・信頼関係構築に努めており、入居者や家族から好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人基本理念を掲げ共有しているとともに、安らぎのある家庭的な環境の中で、お一人おひとりに寄り添い安心して暮らせる生活を支援、利用者の立場に立ち思いやりのある暖かいケアと地域住民や地域の関連機関との連携・協力を理念に掲げ、地域でその人らしく暮らせる為の支援を行っている。	「愛情・尊敬・信頼」と言う法人理念と、その人らしい生活・地域との関わり等を主眼とした理念を掲げている。理念を施設内に掲示すると共に、研修を通じて職員全員への周知・理解徹底を図っている。また、管理者が都度、施設の方針を職員に伝え、職員全員が一貫したサービスに取り組めるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域活動に積極的に参加している。地区の敬老会に参加したり、小学校や高校生との交流もある。地域の方々と顔なじみの関係作りと繋がっている。	日頃から地域住民とは挨拶・声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加・ボランティアの受け入れ等を行い、地域との交流を推進している。また、市役所に入居者の作品を展示する等、積極的な交流・施設の理解促進に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の敬老会やイベントで、健康体操を実施したり、認知症サポーター養成講座の開催をし地域の方に参加して頂けるような取り組みを行っている。また、地域の方より依頼があり、地域密着型サービスや事業内容等についての説明会を開催した。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動等の実績の報告の他、利用者、家族からの意見の他、地域の区長、民生委員、老人クラブ会長、学校の先生等の多方面からご意見を頂き、運営に活かしている。	市役所職員・地域包括支援センター職員・地域住民・民生委員・家族等を構成員として、併設の小規模多機能ホームと合同で年に4回開催している。会議では、スライドショーを活用しながらの施設活動報告や意見・情報交換を行う等、施設理解促進・サービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて、活動の様子を伝えると共に、より良いサービスの為の相談、助言を頂いている。また、毎月行政を交えた地域密着連絡会に参加をし、報告と助言を頂いている。	日頃から市に対して業務の報告や相談を行っている。また、運営推進会議・地域ケア会議・グループホーム連絡会・地域密着連絡会を通じて、市と意見や情報交換を行っている。	

【千葉県】グループホームまんざきの家玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行った実績は無く、日頃から身体拘束にならないように意識して対応をしている。今年度も、研修予定を組んでいる。	マニュアルを整備していると共に、日頃から会議や申し送りなどを通じて、職員全員が身体拘束排除の意義の共通理解を図っており、身体拘束をしない支援の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、人権について外部研修に参加後、部署内でも研修を行った。入浴又は、更衣時に、不審な内出血や外傷がないか観察を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の方にも参加を呼びかけ、権利擁護・成年後見制度について部署内研修を行い職員の知識を高めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス導入前に、出来るだけ見学をしていただき、理念、サービス内容、料金、緊急時の対応等を説明し、十分な理解と納得をして頂いてから、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご利用者、ご家族より意見、要望を頂いている。会議録は職員に閲覧し情報の共有に努めている。また、日頃の活動に関してご利用者また、ご家族の面会時等に意見を取り入れ反映している。	家族の訪問時・電話連絡時や運営推進会議等を活用して、意見・要望の把握に努めている。また、施設季刊誌「四季歳々」や月次報告書「まんざきこーよ」を発行し、入居者の日々の活動や様子を伝えており、施設の理解促進・信頼関係構築に努めている。挙げた意見・要望においては会議や申し送り等を活用し、周知・検討の上、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業方針作成時には、意見や提案を聞き作成をしている。また会議での話し合いの場を設けるとともに、随時、相談や報告を受け運営に反映している。職員アンケートの実施も行った。	定期的に会議を開催しており、職員の意見や提案を確認している。また、管理者が個別の相談にも対応する等、職員個々の思いを把握し、働きやすい職場環境の整備に活かしている。	

【千葉県】グループホームまんざきの家玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時面接を実施し、各自の状況を把握、相談や改善に努めている。また、労働時間帯などは、家庭の事情等考慮し、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で実施するリーダー研修・中堅研修及び全体で行う研修会の参加の他、個々の希望を聞き、外部の研修に参加ができています。研修内容は、部署内に持ち帰り、情報の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の研修に参加し知識の共有を図ったり、地域包括支援センター主催の勉強会に毎月参加を行っている。また、毎月、地域密着連絡会にて、成田市内の施設と情報交換を行っている。その他、成田市介護保険事業者連絡会開催の研修にて、同業者の方との勉強会に参加やイベントを開催し、ネットワークづくりと繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には、出来る限り利用者本人に見学をしていただき、不安なことや分からないことがないように説明を行い、安心して生活ができるように、環境を整備したり、傾聴することにより不安を和らげることが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には、ご家族から生活状況や身体状況など様々な介護の困難さをじっくりと聴くようにしている。また、利用後にも電話や面会時はもちろんのこと、毎月報告書にて状況を伝えて、関係が途絶えることのないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な視点からアセスメントを行い、本人が望んでいる生活とご家族が望まれている生活を理解し、可能な限り要望に答えられるように努力をしている。		

【千葉県】グループホームまんぎきの家玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の生活歴や、出来ることや出来ないこと、得意なことを把握し、暮らしの中でその能力を発揮できるように支援している。日常生活で出来る事は職員と一緒にいき、コミュニケーションを常にとって信頼関係に務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段からご利用者の様子を報告し、必要に応じて随時支援方法の相談を行い、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会の連絡調整や、手紙のやり取りの支援をしている。また、ご自宅付近のお祭りや運動会などのイベントにも参加し、昔からの知り合いの方々との交流も図っている。日頃からも住み慣れた地域の公園などに出掛けたりとの外出も行っている。	友人・知人・家族の来訪を随時受け付けており、外出・外泊も自由となっている。希望に応じて、手紙のやり取りも支援しており、馴染みの関係継続に努めている。また、地域の商店・公園の利用やお祭り等の地域行事への参加により、同世代との馴染み関係の継続及び新たな馴染み関係の構築にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いにコミュニケーションが取れるように職員が間に入り、会話をつなげたり、集団での活動を通しより関係性を深められるよう支援を行っている。また、定期的に交流を深められるような食事会やお茶会などを企画している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所された方と、お会いし声掛けやお話、困った事がないかなどのお話を聴いている。必要に応じて、生活相談員に報告を行う。また、長期入院された際は面会などを行い、関係性の継続を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴、習慣、今後の意向の聞き取りを大切にしている。出来ていた事の継続やご家族や友人、地域との途切れない関係性作りの継続を心がけている。また、声掛けを多く行い、言葉や表情から心情を察したり、普段の会話の中で聴いたり、意思の把握に努めている。	契約時に本人・家族から身体状況・生活歴・意向等を確認していると共に、他事業所や医療機関から情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議・連絡ノート・申し送り等を活用し、情報の共有及び本人本位の支援を検討している。	

【千葉県】グループホームまんぎきの家玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時や日々のコミュニケーションを重ねることで、生活習慣やリズム、価値観を把握し、サービスに活かせるように努めている。その他にも、ご家族の面会時に馴染みの暮らし方や生活環境などを聴き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活のリズムを大切にしながら、日々の会話や表情、バイタルなどを参考にして、常に心身の現状把握に努めている。日々の状態の変化は、ケース記録・看護記録に記載、また申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状況について随時、介護職、管理者、計画作成者、看護師間で話し合いを持ち、また会議での検討を行い、情報の共有に努めている。また、随時ご家族へ相談・報告を行い、協議の上で、介護支援方法を決めている。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画の作成を行っている。必要に応じて、医師・看護師の意見も取り入れながら状況判断を行う等、より効果的な介護計画の作成に努めている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録、特記は業務日誌と職員連絡ノートに重複して記録し、職員間の情報共有とモニタリング、介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活習慣を大切に、また毎日の生活の中で出た要望を取り入れながら、外出支援や活動内容を話し合い決めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からの友人や顔なじみのボランティアの方々、また地域の方々との交流を持ち、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

【千葉県】グループホームまんざきの家玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医へご家族と共に受診をされている。家族対応が出来ない場合は、施設で送迎を行っている。急変時などの場合は、迅速に家族と連絡を取り、必要に応じて、協力病院への受診ができるように体制を整えている。	家族が希望する医療機関を受診しており、必要に応じて職員が同行している。家族が同行する際は、受診日までの入居者の状況を文書で提供している。併設の小規模多機能施設の看護師の協力により、健康状態や身体機能の維持・向上に努めている。協力医療機関とは24時間連絡が可能となっており、緊急時や急変における対策を講じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝と必要時にバイタル測定を行っている。服薬管理、入浴時には必要な処置や状態の観察、排便や歩行状況など小規模多機能の看護師と情報を共有し、受診が必要な時はご家族へ伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日々の様子や急変時の様子を伝えて医療との連携を図っている。体調不良時は、かかりつけ医・協力医に受診する前にご本人の様子を医療機関に伝え、受診の必要性の有無やアドバイスを頂いている。定期受診時も日々の状態についても、バイタル表や日々の様子を手紙にし渡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、毎日の様子をご家族へ連絡し、また不測の事態にも協力病院との連携をとり、対応ができるようにしている。さらに、特養などへの入所支援が出来る体制がある。	重度化・終末期における施設方針を掲げており、契約時に説明を行っている。また、急変時には医師・看護師とは24時間の連絡が可能となっており、適切な対応が取れるよう体制を整えている。その他にも同法人施設との協力体制が整っており、ニーズに応じたサービス提供や切り替えが可能となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、マニュアルに沿って対応をしている。小規模多機能の看護師と連携を取ると共に迅速に、ご家族に連絡を入れて対応を協議し、必要時には主治医または、協力病院にすみやかに連絡し搬送している。AEDの設置も行っている。		

【千葉県】グループホームまんぎきの家玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回ご利用者様、地域の方参加して頂いての避難訓練を行なっている。又、職員全てが消火器、消火用散水栓の使用方法を学んでいる。運営推進会議を通して、日頃の地域との交流の中で災害時に協力していただけるように呼びかけている。	スプリンクラー・火災報知機・自動通報器を設置する等、緊急時・災害時における消防設備が整っている。消防署の立会いの訓練を含め、年2回消防避難訓練を実施している。訓練は、併設の小規模多機能ホームと合同で行っており、夜間想定訓練等を実施する等、対応力の向上に努めている。また、運営推進会議を活用し、地域や関係者の理解・協力を得られるよう工夫している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念である愛情・尊敬・信頼の気持ちを常に持ち、プライドを傷つけない声掛けと対応をしている。自分がされたい介護、されたくない介護を常に意識し、人生の先輩として尊敬の心で対応を行っている。	個人情報保護及びプライバシー保護に関するマニュアル整備・研修の実施を行っており、意義の周知を図っている。日中は玄関のカギは施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り声掛けを多く行い、本人の思いや希望を聴くように心掛けている。言葉で上手く伝えられない方には、表情やしぐさを観察し、訴えに気が付けるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを大切に、静養時間をもうけたり、お好きな時間に居室で過ごされたりと、日課は決めないでご本人の希望を優先している。また、日々の中で何がしたい等要望を聞き、活動に取り入れ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの習慣を大切に、鏡の前で使い慣れたブラシや石鹸、化粧水などで身支度を整えて頂いたり、今までの着慣れた洋服を持参され着て頂いている。月に2回希望に合わせて、美容師に本人の希望に沿ったカットを行っている。		

【千葉県】グループホームまんぎきの家玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられるように、その時期の旬な食材を取り入れながら行事食やおやつ作りを一緒に行っている。準備から片付けも役割を持ち行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。食材や献立は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、外食の実施・行事食の提供・フリーメニューの日を設ける等、季節や楽しみを感じられる食卓作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのADLに合わせて食事形態を変えている。水分摂取量は24時間チェック表を使用して管理している。また、声掛け介助のほか、摂取量が少ない際は、ご本人の好む物や慣れ親しんだ食べ物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員がその方に合わせて口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は、職員が声掛けし、必要に応じて介助している。口腔状況に応じて、ご家族と相談し、訪問歯科の利用を行い、治療やアドバイスを頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツに排泄される前にトイレで排泄が出来るタイミングを見計らって、トイレ誘導を行うか、また尿便意のサインを見逃さないように努めている。また、夜間帯のみリハパン等の使用を行い、日中はできる限り布パンツで過ごして頂いている。	排泄チェックリストを活用しながら個々のパターンを把握しており、トイレ誘導・声掛けを行いながら排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間においてはポータブルトイレの使用・トイレ誘導を行う等、状況に応じた適切な支援に努めている。食事のメニューに工夫を凝らすと共に、必要に応じて、医師や看護師の指示を仰ぎながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から、適度な運動や散歩を日課としている。水分量もチェックをし多く摂って頂けるよう努めている。状況に応じて、水分ゼリーや好みの飲食物に変えたりと工夫をしている。また、食事のバランスを考え、繊維物の多い物を使った手作りおやつ等を一緒に作り提供を行っている。		

【千葉県】グループホームまんぎきの家玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用するなど温まるだけではなく、見た目、香りを楽しんでいただいている。必要に応じて毎日入浴されたり、2～3日に1回入浴されるなど、個々の対応をしている。また、体調によって臨機応変に入浴の日や時間帯をずらして支援を行っている。	入居者の体調や希望に応じて、柔軟な対応を行いながら適切な入浴機会の確保に努める。必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を行っており、入居者の清潔保持に取り組んでいる。入居者の希望や状況に応じ、時間や日にちの変更や同性介助を行う等、入居者の希望やプライバシーに配慮した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣やその日の体調、ご本人の希望に沿って支援を行っている。就寝時寝付けない方などには温かい飲み物を提供したり、お話を聞き安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイルしている。一人ひとりの薬をケースに仕分けし、日付と氏名を確認してから、誤薬が無いように服薬介助を行っている。確実な服薬が出来たかどうか、口に含む際、服薬後も口腔内や状態の変化を観察している。処方変更になった際は、状態を観察し、ご家族に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、得意なことを継続できるように支援をしている。農作業や家事を行ったり、また地域に出での交流や外食等を活動に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で、希望を聞きながら活動に取り入れている。慣れ親しんだ場所に散歩や花見に出掛けたり、地域で開催のお祭りやイベント、または味覚狩りや動物園見学などに出掛けている。外出の際は、ご家族に声掛けも行っている。	入居者の意向を確認しながら、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行っている。定期的に外出行事や併設の小規模多機能ホームとの交流行事を行うと共に、積極的に地域行事や敬老会へ参加する等、入居者の生活の活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、トラブルが無いように配慮している。また、必要に応じてご家族に持参して頂き、買物にはご本人を連れて介助を交えて支援を行っている。		

【千葉県】グループホームまんぎきの家玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたいとの希望があった場合には、プライバシーが配慮された部屋で、電話がかけられるように支援している。また、手紙のやり取りもプライバシーを確保し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースについては、家具等の置き場に配慮し、移動しやすいスペースを確保している。また、ご利用者様が作った季節に応じた制作物を壁画に飾ったり、日頃の様子を写真で飾り、面会に来られた方に見て頂けるようにしている。各部屋が均等な温度になるように、温度調整と共に湿度管理も行っている。	施設内はバリアフリーとなっており、明るく開放的な空間作りがなされている。共有スペースは広く確保されており、入居者が好きな場所できつろげるよう配慮している。季節に合わせて装飾を施すと共に、行事の写真を掲示し、入居者・職員間で楽しみを共有できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のリビングの他、静かな環境を好む方や、ご家族とゆっくりと話がしたい方には、居室とは別に談話ができる場所があり、気の合った方同士で同じテーブルに座っていただき、お茶やお食事を楽しんで頂ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具や寝具、小物などを持参されている。また可能な限りご自宅のお部屋と同じ環境になるように配慮している。	本人の希望に応じて、馴染みの家具等の持ち込みができ、居心地良く生活できるよう配慮している。また、畳・布団を利用する事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。温度湿度計・エアコン・換気扇が設置されており、適切な空調管理がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手摺りを取り付けて、安全確保及び自立への配慮をしている。リビングや廊下等も移動がしやすいよう環境整備に努めている。		